

令和3年度 第3回伊勢原市環境対策審議会 会議録

〔事務局〕 環境対策課

〔開催日時〕 令和4年3月4日（金曜日）午後2時から5時まで

〔開催場所〕 伊勢原市役所 3階 全員協議会室

〔出席者〕

（委員）杉山委員（会長）、武藏委員（副会長）、藤本委員、南澤委員、宮垣委員、
濱田委員、河内委員、新谷委員

（事務局）石田経済環境部長、田中環境対策課長 外2名

〔公開可否〕 公開

〔傍聴者数〕 0人

〔審議の経過〕

1 開会

2 部長あいさつ

3 議題

（1）第三次伊勢原市環境基本計画骨子（案）について

事務局より、第三次伊勢原市環境基本計画骨子（案）について説明の上、審議された。

（2）その他

【議題に対する意見等】

（委員）計画策定の背景は今後も計画の中に同様の内容が残っていくのか。

（事務局）全て残すことは予定しておらず、状況に応じて見直す考えである。

（委員）現計画では市内のCO₂削減量は数値化されていないが、次期計画ではCO₂削減量を目標値に対して進捗が分かるようにする予定なのか。

（事務局）市内のCO₂排出量は、2050年にカーボンニュートラル、2030年に2013年度比で46%削減を目標とする予定である。その進捗状況は数値で示せるよう手法を検討する。

（委員）この骨子（案）に記載されていない課題等もあると思うが、今後どのように整理していくのか。

（事務局）現計画で達成できていない目標については、引き続き課題として残すという考え方もある。一方、計画として取り組むことが難しいものについては、見直しを行っていききたい。

（委員）新しい広域幹線道路の影響で、市内の緑化が滞ることを心配している。このような要望はどうやって次期計画に反映をしていくのか。

(事務局) 本日御意見として頂くとともに、次回審議予定の施策及び指標の検討で反映をさせていくことを考えている。審議会は回数が限られているので、パブリックコメント制度や、審議会の外での意見聴取等により、皆様が感じられている課題等を反映させていきたい。

(委員) 環境に関する専門用語等については詳しい説明を付けて頂きたい。

(事務局) 用語の定義や解説については詳しく記載するようにする。

(委員) 環境基本計画に他の2計画を包含するということが、資料を読み進めれば理解できるが、図2-1からは、包含する計画がどのような位置づけになるのかが伝わりにくい。表2-1の並びもP25の基本方針の並びと合わせてはどうか。

(事務局) 視覚的に分かりやすくなるよう、図の内容等を見直す。

(委員) 総合計画が平行して策定されているとのことだが、それぞれの計画で審議された内容は共有されているのか。

(事務局) 総合計画は本市の全体を見渡す計画だが、その中でも脱炭素社会は重要な位置付けである。総合計画の内容は必要に応じて委員の皆様とも共有していきたい。

(委員) 他の個別計画で既に決まっている目標や指標については、我々では意見を言いにくいと感じている。

(事務局) 次期計画で、他の個別計画の目標を使用することもあると思うが、その内容について議論頂くことも可能だと考えている。

(委員) P19の温室効果ガスの目標については、目指すべき姿の後ろにあった方が流れとしてはいいのではないか。

(事務局) 次期計画の中でカーボンニュートラルの推進は重点取組事項であるので、先にその目標について記載させて頂いた。資料の流れは再度検討したい。

(委員) カーボンニュートラルの推進と他の4つの大目標は並列という理解でいいのか。カーボンニュートラルを推進するために、他の4目標があるというようにも見える。

(委員) カーボンニュートラルの施策は他の4目標に共通する内容も多く、カーボンニュートラルに他の目標が紐づいていると考える方が整理しやすいように感じる。

(委員) その人が住んでいる地域によっても施策の優先順位は変わってくる。分野ごとに分けるのは非常に難しいと感じる。また、次世代を担う人づくりについては、全ての目標と関わっているということを図3-2や施策体系でも表してはどうか。

(事務局) カーボンニュートラルの推進に取組むことで、他の目標に対しても何らかの影響を与えていくという意味で中心に置かせて頂いた。重点取組ではあるが、環境基本計画の中では他の大目標と並列の位置付けであると考えている。

(委員) 目指すべき将来像を実現するにあたって、ストーリー立てていくことが必要である。観光等、伊勢原市として注力しているものはあるので、そういったものと関連させながら、目玉となりえる施策は次回以降しっかり御検討頂きたい。

(事務局) 施策を決めて目玉としていくという考え方もあると思う。次回の審議会ではた

たき台となるものをお示ししたい。

(委員) 今年になって世界的な地政学的な問題等が、いずれ本市にも関係してくるのではと心配している。食料の自給自足、農業の気候変動適応、自立分散型のエネルギーマネジメント等、取組まなければいけないことはたくさんある。そんな中で、今回のロシアの問題が起こっている。

(事務局) 今の段階で、市として世界的な問題に対して何か対策をしているかはお答えできないが、対岸の火事ではないという認識である。今後、食料にしてもエネルギーにしても地産地消ということは見据えていきたい。

(委員) 取組の柱で「適正処理の維持・啓発」では、どういったことに取組むのか。

(事務局) 現時点では、食品ロスやマイクロプラスチック対策を想定している。

(委員) 本市の特徴は、やはり豊かな自然であると考えます。図3-2は、位置で取組の重要度等が分かるようにしてみてもどうか。

(事務局) それぞれの大目標は並列という認識だが、これまでの御意見を踏まえて、位置付けの見せ方と、計画そのもののアウトプットの形式は今後も検討していきたい。

4 閉会